

岩崎えり奈 (日本学術振興会)

「家族計画の中の女性——チュニジアの事例」

鷹木恵子 (桜美林大学)

「チュニジア農村部の女性の内職化と性別規範——ジェリド地方のナツメヤシ・オアシスの事例を中心に」

村上 薫 (アジア経済研究所)

「トルコにおける女性労働と社会政策——自由主義経済下の『柔軟な労働』をめぐる議論を中心に」

残念ながら、筆者は第3部会 として「イスラームと出生政策」と題された報告を同じ時間帯中に行っていたため、このパネルディスカッションを傍聴できなかった。(小島 宏記)

アルゼンティン人口プロジェクト出張報告

国際協力事業団 (JICA) は、アルゼンティンの経済省国家人口統計院 (INDEC) をカウンターパートとし、同国における次の人口センサスの支援を目的する人口統計プロジェクトを実施してきた。今年度はその最終年として、人口統計データの有効活用のための教育に重点を置いている。

このような背景のもとに、プロジェクトでは数回の「人口統計特別セミナー」を実施してきたが、第4回セミナーの講師として本研究所の鈴木透 (国際関係部第三室長) が招聘された。セミナーはブエノスアイレス市 (2000年3月28日)、コルドバ市 (3月30日)、ウスアイア市 (4月4日) の3ヶ所で開催され、政府・州の統計担当職員を対象に、実際にアルゼンティンのデータを用いた分析例を示しながら、人口分析の方法論について講義した。(鈴木 透記)

台湾人口学会2000年大会

2000年4月21日 (金) ~22日 (土) に台湾・台北市の国立台湾大学で台湾人口学会大会 (会長: 謝雨生・国立台湾大学教授) が「二十一世紀的人口・家庭與遷徙の問題」というテーマの下で開催された。台湾人口学会は大会初日の総会まで「中華民国人口学会」と公式に自称していたが、総会で改称が了承された。総会では筆者が日本人口学会の国際交流担当理事として韓国人口学会を含む東アジア3カ国の人口学会間の相互交流覚書を持参したが、謝会長が3カ国人口学会会長による署名を完了した上でその場で台湾人口学会会員に披露した。また、同覚書を先取りした形で筆者は同大会で報告の機会を与えられた。同様に、同覚書をやや先取りした形で、別記の日本人口学会大会の英語セッションの準備も行われた。

初日の総会終了後、午前中には出生関連の第1セッション、午後には死亡関連の第2セッションと家族・民族関連の第3セッションが開催され、それぞれ3~4本の報告が行われた。2日目の午前には高齢化関連の第4セッションと移民関連の第5セッション、午後には移動関連の第6セッションと華僑・印僑関連の第7セッションが開催され、それぞれ2~4本の報告が行われた。報告題目は英語のものもあり、英語論文も配布されていたが、口頭報告自体は中国語でなされた。しかし、第6セッションで筆者が "Sustainable Urbanization and Religion in Southeast Asia" と題された報告をし、天主教輔仁大学の關秉寅教授が討論者を務めて下さった際は質疑応答も含めて英語で行われた。参加者はほぼ全員が台湾出身者だと思われるが、欧米で教育を受けた方が多く、外国で教えている方も少なからずい

るため、英語での討論にあまり不自由をしない参加者が多かった。

なお、同学会の大会は毎年3月頃に開催されており、昨年の2000年センサスをテーマとした大会では廣嶋清志・島根大学教授が報告された。中華民国（台湾）人口学会と昨年の大会について詳しくは廣嶋教授による学界消息（「台湾人口学会大会出席報告」『人口学研究』第24号，1999年）を参照されたい。今後の台湾人口学会（および韓国人口学会）大会の案内は3カ国覚書に従い、新たな国際交流担当理事によって会報等を通じて日本人口学会会員に周知されることになっている。（小島 宏記）

ヨーロッパ出生力・家族調査（FFS）国際会議

2000年5月29日～31日にベルギーのブリュッセルにおいて、ヨーロッパ出生力・家族調査国際会議（FFS Flagship Conference）が開催された。FFS（Fertility and Family Surveys）は1988年から1998年にかけて、PAUとUNFPAの協力・支援のもと、国連ヨーロッパ経済委員会（ECE）に加盟している23の国々において実施された国際比較を目的とした調査プロジェクトであり、これまでこの地域におけるパートナーシップや出生行動の近年の変化についての重要な知見を提供してきた。各国の調査結果については、Fertility and Family Surveys in Countries of the ECE Region: Standard Country Reportとして出版されている。今回の会議は、1999年末にプロジェクトが終了したことをうけて、その成果を集大成する目的で開催されたものである。会議のテーマは "Partnership and Fertility - A Revolution?" であった。

会議は以下の6つのセッションで構成されていた； パートナーシップ行動、 FFS データベース、 出生行動、 方法論と接近法、 パートナーシップと出生力の相互関係、 今後にむけての研究課題と政策アジェンダ。それぞれのセッションでは招待研究者による報告に続いて、投稿論文の報告があった。その他にポスターセッションが開催され、筆者は出生動向基本調査を用いた、日本のパートナーシップ行動の特徴に関する報告を行った。全体を通じて、第二の人口転換のヨーロッパにおける多様性が指摘されていたが、結婚行動や出生行動に育児政策のみならず高等教育のあり方が関連しているといった指摘は興味深かった。（岩澤美帆記）